

【資料】皇太子訪米に関する外交文書  
昭和32年 1924 第二二二二一 一月二二日 一三三九 米英

高橋 弘  
皇太子訪米の経緯

藤山大臣 田中総領事  
(日本国交百年に際し皇太子殿下御訪米の件)  
第一九〇(機密) (館長符野坂)  
一 明一九〇〇年が日米国交開始百年に相当するので、これを記念するため日米両国においてそれぞれ全国的規模において結婚の文化啓蒙事業を行い、もつて両国民の相互理解を推進し、両国の親善友好関係の基礎を一段と強化することは極めて有益であると思料される次第に、本件については昨年十月末当館において開催のPR担当官会議においても協議の結果、米国内における諸計画については、まず当館および在米大使館の意向においてジャパン・ソサエティ方面の意見も徴して立案し、さらにこれに關係各公館の計画も加えて本省に具申することを打合せた。

二 右に基つき当館限りの一時的試案は昨年未作成の上各公館にも送付したが(寄年二月九日付在米大使館あて公館第五七号参照)、右に關連し在米大使館係員が同地ジャパン・ソサエティの幹部と相談したところ、もし米政府において明年四月頃皇太子殿下および同妃殿下を團圓として御招待する事ができればもつとも有益であるとの意見があり、またそのニシアチブはロックフェラー氏にとつてもらうべきだとのことであつた趣である。

よつて本月初七日閣僚官が当地出張の際、当地ジャパン・ソサエティの事務理事オーバートン氏を当館に招き右につき内々その意見を徴したところ、同氏も全般的に賛意を表し、右はただちにロックフェラー会長に伝達しその結果を内報する旨約した。

四 よつて本年三月中旬前本館はロックフェラー氏を訪問し(同氏は福邪のため約一週間引籠り中で、本日

はじめてオフィスに出動された)直接本件に関する意見を徴したところ、同氏は皇太子殿下は米国民の間に極めてポピュラーであり、殊に最近の御婚約が一般に歓迎され一層親しみをもたれているから、もしこれが実現すれば米朝野は争はずに歓迎するものと信じていること、および殿下の前回の御訪米の際は昨年もおおむねが明年は御新婚旅行の意味もあつて一層喜ばしく、日米国交開始百年を記念するにはこれ以上のことはないとおつこと等を述べて、右実現方については自分としてはできる限りのことを行いたいが、これを米政府に進言する方法としては当然閣僚官に通告すべきであり、しかして自分はタレス校長とはききわめて親しい間柄であるが、順序としてはオーバートン次官補にまず通告すべきだと考えること、また國書云々のことは、自分はワシントン・プロトコールに通じていないのでなんとも申すことができないが、ともかく明年三月中旬にオーバートン次官補に書翰をもつて自分の意向を伝えることとする旨語られた。

山田次官 アメリカ局長  
總大使 北米局長 儀典長  
官房長  
洋総領の共同声明と皇太子訪米について  
昭和35年1月9日

一 パーソンス次官補の意向は共同声明において皇太子殿下の訪米に具體的に触れたいとのことであり、他方藤山大臣の意向は「皇太子殿下の訪米については総領が安條条約推進努力する意向なる形にて触れることとされた」とのことである。  
2 共同声明において殿下の訪米につき具體的に触れるとは少なくとも殿下の訪米につき「意見を交換した」といふ程度ではおさまらないであらう。若し共同声明中で殿下が何月に訪米するまいし米田の招請を受諾したといふことになれば、先に元首が訪日し皇太子殿下を招請したエチオピア、インド、イラン、ペルシア、メソポタミア

の機構を欠くことにもなる。

3 德方藤山大臣の意向の如く「総領が安條条約推進努力する」字を文字と取りに受取りし批准は批准交換すなく日本側の批准と解しても皇太子殿下の訪米はマイクの訪日より遠くなる可能性は大となり、かなりなる(と)でもなりかねない。

4 日本側の報告から云えば皇太子殿下の訪米については共同声明において何れも触れなかつたことが遺憾である。

昭和35年 195003  
第二二二二一 一月二二日 一三三九  
藤山大臣 田中総領事  
(日本国交百年に際し皇太子殿下御訪米の件)  
第一九〇(機密) (館長符野坂)  
一 日種追加についてはすでに東京において諸般の事情を前案の上結論に達せられ、新案案に基づき準備中のことと察せられるが、諸方としてこれらまで非常な熱意をもつて計画を進めて来たロックフェラー氏及び國務省關係官等の意向をも考慮することと適当と考へ(奥内をニューヨークに出張、直達ロックフェラー氏に面談せしめた)日程を短縮するに至つた理由および詳細を平面に説明したところ、前者はアイゼンハワー大統領訪日中止にいたる最近の日本における一連の事件により皇太子の訪米は必ずしも容易な事となつてしまつたこと、後者は奥内をニューヨークに出張、直達ロックフェラー氏に面談せしめたこと、その意味でぜひとも原案の通り実行方針は一層考慮願いたい旨

の強い希望を表明し、また後者は日本人の気持ちを知らずとして日程短縮に至つた理由がわからないものがない、一般米国民には到底理解し難きこととあり、かえつて取り切れざる気持ちを抱き、恐ろしい無用の誤解を自ら生ずるおそれもあるものと懸念されるので、日程はもつぱら日本側の決定に委ねられるべきものであることは申すまでもないが、自分としてはこの際やはり当初案通りの実行方針が最もよいとの見解を披露した。

3 大統領の訪日中止に至つた一連の事件にもかかわらず米国民一般が新しい世代の象徴としての皇太子御夫妻の訪米を期待し、これを歓迎したいとの気持ちを抱き、あることは御承知の通りであり、また従つてかかる米側の歓迎の気持ちか強いだけにおおむね大統領訪日拒絶を取消した日本側の立場としては両殿下の訪米をできる限り控へたいとの御意向はもつとも考へる次第であるが、招請したる米政府當局およびその關係者のきわめて率直なる意向が上記の通りである事実にも従ひ本館としてはいま一度当初の日程案につき御書翰を願いたく、はなはだ懇願なる次第なるも再度御書翰を願ひたい。

4 西殿下の訪問を単に儀礼的なものと考へる場合は別として、広く一般米人との親善關係を目的とする場合は御承知の通り、ニューヨークよりもむしろ地方都市におかされるべきとの考へられるので、もし陛下に御承知される御旅行の日程の關係をどうしても当初の日程案の実行が不可成の場合はワシントン、ニューヨークの日程を切りつめても地方諸都市をできるかぎり訪問される(場合によっては日曜のみとなつてもやむを得ない)ことが望ましいと考へられるについては、たゞは貴館第二案のワシントンとニューヨークを並行して、そのかわりにシカゴとニューヨークを併走短時間でも訪問することとする案とはいかがかと存せられるが日程短縮のためかえつてスケジュールが簡便となり両殿下の健康上にも好ましく考へられるので、この際でも御承知の決定案の御書翰をお願ひする次第である。

昭和35年外務省が公表した外交文書

### パラリンピックについて

障害者といえは、昨日リオデジャネイロで第15回パラリンピックの開会式がありました。昭和39年(1964)の東京オリンピックの時にパラリンピックが開催されていますが、その前のローマオリンピックの時に第1回が開催されており、東京は第2回でした。パラリンピックという名称はその頃に定着したものです。

東京オリンピック開催前の日本では、まだ身体障害者スポーツという考え方はなく、スポーツは病院などでリハビリとしてやっていたにすぎません。ヨーロッパではすでにスポーツとして、また社会復帰の手段としてやっていたのです。東京オリンピックの前から、ぜひローマに続いてパラリンピックを開催してほしいという要請が来しました。そこで身体障害者の福祉をやっている方々を中心に喧々諤々の議論になりましたが、なかなか結論が出ない。

当時、共同通信社のローマ特派員だった渡邊忠恕さんという方の奥様が今の皇居陛下にお会いになり、ローマでのパラリンピックについていろいろ話をされた。皇居陛下はそれに共感して、すぐ陛下に伝えられた。そこから陛下下のパラリンピックとの関わりがはじまりました。

もちろんお立場上自分たちは具体的なことはできませんから、いろいろな人にお話をされて、身体障害者福祉の人たちもやろうという方向にまとまって実現に至ったのです。

その時、今の陛下、当時の皇太子殿下が大会名譽総裁をお務めになりました。

ところが、当時はまだパラリンピックのための競技場などはありませんから、オリンピック選手の練習用競技場に仮の観客席を設置して使うことにしたわけです。陛下下は毎日そこに行かれて、外国からの選手や大会関係者と熱心にお話しをされていたようです。

パラリンピック後に東京御所で関係者の慰労会がありました。そこで陛下が、障害者スポーツの考え方が日本と外国とでずいぶん違う、日本も早く外国並みになるといい、日本でパラリンピックのような競技会を毎年開催できないものかということをお話になった。

それがきっかけで東京オリンピックの翌年に全国身体障害者スポーツ大会が岐阜県で開催されました。それ以降毎年、各県持ち回りで行われるようになり、平成13年(2001)からは、全国的障害者スポーツ大会と一緒に、現在の全国障害者スポーツ大会となっております。

障害者スポーツにとって練習場の確保が大きな問題です。例えば、アーチェリーがあります。アーチェリーは我々もできるし車椅子の人もできる。そこでアーチェリーを同様の種目にすれば、日本中にアーチェリーの練習場ができるだろう。そうすれば障害者もそれを使える。そういうことを陛下が思いつかれて、いろいろな人にお話をされた。その結果、昭和55年(1980)の国体から、アーチェリーが正式種目として採用されました。

宮部良一  
「新人生報」の医師  
より

1974年12月18日 41才の記者会見

記者 それならば、もう少しはつきり意見を出されたいですか。皇太子 たえば儀式などでの言葉では、主催者側の希望を入れなければいけないが、それだけではロボットになってしまふ。立场上、ある意味ではロボットになることも必要だが、それだけであってはいけません。その調和がむずかしい。憲法上、直接の警告、指導はできないが、人に会う機会が多いので、そのつど問題を質問形式で取り上げ、(問題点に)気付いてもらうようつとめていきます。公害問題を例にとると、人間の幸福を産業経済の発展を中心にみるか、人間の健康を中心にみるかだが、私は人の健康、生命を大切にすることが第一だと思えます。公害にはかねてから関心を持っており、これまでも工場視察の際には、いろいろ質問して、注意喚起するようにはしてきました。

記者 木戸日記 たれも読んでおられると聞いています。皇太子 私が終戦を迎えた時は小学校6年です。戦前のことは様々な本を読んで読んでいます。終戦後、東京に居た時は一面焼け野原だったことを覚えています。陛下の放送で日本が負けたことをはつきり知った。(戦前の歴史を批判するのは)歴史家のやることであり、不十分な知識でやるのは良くないと思います。その場にいる人の気持ちはなかなかわからないから、(批判は)無責任なものになりやすい。今後とも原資料は機会があることに見ていきたい。



図1 宮崎県立整肢学問訪問時の写真(皇太后美智子さま)朝日新聞出版、2014年

1969年8月12日 結婚10周年92者会見